

中央材料室で業務改善 月51万円のコスト削減

函館中央病院

函館中央病院（函館市）中央材料室の岡部巖第一種滅菌技師は、中材業務の見直しを図り、月約五十一万円のコスト削減と質の向上に結びつけた。七月に開催された

第十四回北海道病院学会で「業務改善によるさまざまな効果」の演題で発表し、優秀演題に選ばれた。

中央材料室とは、診療に支障のないよう使用した器具、物器等を洗浄、点検、組み立て、包装、滅菌、供給などを行う部門のこと。

工夫のポイントの一つが、中材以外の他部署独自のルールを撤廃し、院内統一のルールを策定することで中材業務の流れを効率化した点。従来は他部署で一次洗浄、中材で二次洗浄を行っていたが、一次洗浄も中材に中央化すること

で業務を効率化。

そのほか、ガーゼ類は中材で加工・滅菌していたが多種類にわたるため、統一化と既製品の活用に変更。また、インジケータ（滅菌状態を確認する道具）の使用頻度が最低限だったため、使用頻度を変更。こうした取り組みによって洗浄滅菌の質の向上とコスト削減を行った。

この結果、中材コストを月約五十一万円削減。他部署では一日二十〜百二十分、部署合計で八百五十分の洗浄業務をカットすることができた。

「業務効率化によって仮に業務が増えても、当面は現スタッフ数で対応できる。今後も改善を続け、品質や安全性の向上、効率化に努めていきたい」と岡部第一種滅菌技師は話している。



優秀演題の表彰状を手にする岡部氏